

陳  
情  
書

寫

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

砂糖関税改正反對陳情書

近來一部砂糖業者ハ現行砂糖輸入関税定率法ヲ不便トシ第二、第三、第四種糖ヲ同一種別ニ統一シ之レヲ所謂中双並トシ従来ノ第四種糖関税率百斤四四廿五銭ニ對シ三四十銭以上適當ニ税率ヲ低減シ所謂中双糖ノ輸入ヲ自由ナラシムル希望ヲ以テ関税改正陳情書ヲ提出シタルヤニ聞及ヒ候處右ハ我國産糖業ノ浮沈ニ関スル極メテ重大ナル問題ニシテ輕々ニ断スヘキモノニ無之下名各社ハ茲ニ反對理由ヲ陳情セサルヲ得サル場合ニ立到リ申候

第一 各國保護政策問題

抑モ関税政策ハ産業政策ト関連セル重大問題ナルヲ

以テ一部當業者ノ區々タル利便又ハ現在目前ノ事實ノ  
ミニヨリテ之ヲ改変スヘキモノニ無之世界各國ノ保護  
政策ニ鑑ミ内國産業ノ實情ニ照シ國策的見知ヨリ之ヲ  
決定スヘキモノトス歐洲大戰後各國ニ於ケル砂糖保護  
政策ノ變化ハ實ニ驚クヘキモノ有之彼ノ自由主義ヲ以  
テ傳統的國是トセル英國スラ糖業保護法ヲ以テ内國甜  
菜糖業ニ對シ原價以上ノ補助金ヲ交附シ十ヶ年間ニ年  
産二百五十万噸五十工場ノ設立ヲ理想トスル破天荒ノ  
奨励ヲ断行シタルカ如キ世界産糖ノ四分ノ一ヲ需用ス  
ル大消費國タル米國カ僅ニ其二割ヲ自給シ得ルニ拘ラ  
ス戦後兩國ニ亘リテ関稅引上ケヲ実行シ以テ國産糖業  
ヲ保護シタルカ如キ露國カ糖業上ニ共產主義ヲ除外シ

19 小川町 池田紙店印

糖業トラストヲ作りテ戦前以上ノ産額ニ到達センコト  
ヲ期シ既ニ末期ハ三割五分ノ増産ヲ豫想セラルルカ如  
キ「チエソックスロウウ」アキア及波瀾カ内地消費及輸出糖  
ノ比例制度ヲ設ケテ新業ノ保護及貿易ノ均衡策ヲ建テ  
タルカ如キ獨逸及バルカン諸邦ノ砂糖監理ハ勿論濠洲  
モ亦外糖驅逐策ニヨリテ産糖ヲ増加シ更ニ土耳其ニ至  
ル迄糖業奨励策ヲ樹立シ着々政策ノ実行ニ邁進スルノ  
状實ニ目覚マンキモノアリ之レ糖業獨立ノ如何ニ國家  
的大緊要事タルカヲ最モ雄辯ニ説明スルモノニシテ近  
年世界産糖未曾有ノ大增産ハ即チ其結果ヲ如實ニ表現  
シタルモノニ外ナラス斯クテ世界的大增産ハニ大輸出  
地タル玫瑰瓜哇ノ両糖ヲシテ勢ヒ其販路ヲ東洋方面ニ

驅リ投賣的商策ヲ以テ我國ニ殺倒スルハ一目瞭然ノ事ナリトス

却說我國砂糖関稅定率法ハ國産糖業ノ保護奨励ヲ主眼トシ自産自給ヲ目的トシテ制定セラレタルモノニシテ今ヤ我糖業ハ其庇護ニヨリ幸ニ相當ノ發展ヲ示シ殊ニ近年其發達著シク近キ将来ニ於テ其目的ヲ貫徹シ更ニ進ンテ國産糖ノ輸出ヲ期待シ得ヘキ氣運ニ向ヒ官民擧ツテ一層ノ奮勵努力ヲ致シソツアル今日俄カニ提案ノ如キ改正實現セシク忽テ其根底ヲ覆サレ関稅政策ノ根本目的モ亦破壊セララルヘキハ必然ナリ要スルニ我國関稅政策並ニ糖業ノ根本政策ヲ閉却シ徒ニ目前ノ小利害ニ没頭シ現在ヨリモ稅率ヲ引下ケ更ニ門戸ヲ解放シ

13 小川町 池田紙店印

一層其輸入ヲ助長シ我國糖界ヲ外糖ノ蹂躪ニ委シ結局自滅ノ悲境ニ陥ラシムヘキ関稅率改正ハ國家的見地ヨリ絶對ニ之ヲ排斥スヘキモノトス

### 第二 殖民政策問題

台湾島領有以來年ヲ閱スルコト僅カニ三十年ニシテ今日ノ發達隆昌ヲ致タルハ直接間接ニ甘蔗糖業ノ發達ニ負フ所多大ナルハ何人モ之ヲ否定シ得サルヘシ例ハ糖業者カ資力ヲ盡シテ土地生産力ノ増加ヲ謀ルカ如キ延長千三百哩ニ達スル輕便鐵道ヲ敷設シテ地方開發ノ機關タルカ如キ農事改良ヲ續行シテ收穫ノ面目ヲ一新シタルカ如キ著シク台湾民衆ノ富ヲ増殖シテ其生活向上ヲ求シタルカ如キ其外形ニ現ハレタル結果ノ一端

ヲ示スニ過キス又北海道朝鮮ノ拓殖事業モ歐米ノ例ニ倣ヒ甜菜糖業ト之レニ伴フ畜産業ノ奨励トニヨリ將ニ大開發ノ氣運ニ向ハントス即チ糖業ノ發展普及ハ土地生産力ヲ増大シ廣ク勞力ノ需用ヲ喚起シ移民ヲ奨励シ文化發達ヲ促進スル等殖民地開發ニ功獻スルコト多大ニシテ我國殖民政策ノ遂行ニ資スル蓋シ甚大ナルモノアリ然ルニ若シ外糖ノ競争壓迫ニヨリ國産糖業一朝ニシテ破壊セラレシカ殖民地政策ニ蹉跌ヲ来スハ勿論多數從業者ノ生業ヲ奪ヒ既ニ投下シタル巨額資金ノ浪費ヲ招キ我國事業界ニ一大暗影ヲ投スル等其影響真ニ寒心ニ堪エサルモノアリ

### 第三 國産糖破滅ノ問題

19 小川町 池田紙店印

我國産糖業保護奨励ノ實施以來年ヲ經ルコト僅カニ二十有餘年ニ過キス幸ニ今日ノ隆昌ヲ致シタルハ慶賀ニ堪エサル所ナリ然レトモ鄙テ我國産糖業ノ實際ヲ觀ルニ主トシテ原料ノ供給及其價格ノ關係ニヨリ其生産費外糖ニ比シ頗ル割高ナルヲ免セス動モスレハ外糖ノ競争壓迫ニ堪エサルモノアリ當業者ハ之レカ引下ケニ不断深甚ノ注意ヲ怠ラサリシ所ナリトス大戰以來我國物價ノ暴騰勞銀ノ騰貴殊ニ食料品不足ニ因ル他農作物トノ競争上却テ年々生産費ヲ増嵩シ尙近來台湾ニアリテハ内地種米トノ對抗並ニ思想ノ變化等ニヨリ一層生産費ノ増加ヲ来サントスルハ最モ痛苦トスル所ニシテ加之不断暴風雨襲来ニ脅威セララルノ不安アリ幾多ノ

不利不便ト苦闘ヲ繼續シ專心一意所期ノ目的達成ニ努  
カシツツアルノ実状ニアリ特ニ近年我國ニ於テ漸ク其  
端ヲ開キタル甜菜糖業ニアリテハ一段ノ不利益ヲ免レ  
ス我國産糖業ハ其現在ノ実状ヨリスルモ更ニ進ンテ今  
一層深厚ナル保護ヲ要スル頗ル切ナリト云フヘシ  
由來玖瑪及瓜哇ノ兩島ハ天恵ニ富ミ生産條件頗ル有  
利ニシテ其砂糖生産價ノ低廉ナル他ノ追従ヲ許サス如  
之近來原料甘蔗ノ改良ト製糖技術ノ進歩トニヨリ年々  
大增産ヲ續ケ品質モ亦著シク改善ヲ表タシ益々其競争  
力ヲ増大シ將ニ東洋ニ未襲セントス現行税率ヲ以テス  
ルモ尚我國産糖業ノ危殆ニ頻スヘキハ識者ヲ俟タスシ  
テ明カナリ殊ニ交通至便ナル瓜哇糖ノ如キハ滔々タル

勢ヒヲ以テ殺倒シ來リ精糖原料トシテハ勿論直接消費  
糖モ亦漸次販路ヲ蠶食セラレ比較的基礎薄弱ナル現在  
國産糖業ハ忽チ萎靡不振ノ悲境ニ沈淪スヘキハ疑ヲ容  
レズ糖業ノ前途定ニ寒心ニ堪エサルモノアリ宜シク國  
家ハ此ノ状勢ヲ洞察シ物價ノ趨勢並ニ世界的糖價ノ現  
状ニ鑑ミ列國保護政策ノ変化ニ照シ我國関稅制定ノ主  
義精神ニ稽ヘ適當ナル関稅引上ケヲ斷行シ以テ糖業保  
護ヲ全フシ速ニ自産自給ノ目的ヲ達成シ進ニテ國産糖  
輸出ノ理想ヲ實現スルノ政策ヲ遂行スルノ必要ヲ痛感  
スルノ時ニ當リ卒然トシテ一部糖業者ノ関稅改正希望  
ノ陳情ヲ見タルハ甚タ了解ニ苦ム所ナリ

第四 中双使用問題

精製糖原料トシテ所謂中双糖ヲ使用スルハ世界ノ大勢ナリ現行制度ハ製糖技術ノ進歩ニ伴ハス我國税制モ須ク大勢ニ順應シテ速カニ改正ヲ行フヘシトハ一應妥當ノ趣ナキニアラサレトモ右ハ大体砂糖輸出國ナルカ又ハ消費ノ大部ヲ輸入ニ仰ク國柄ニシテ始メテ何等ノ障害ナク之レヲ実行シ得ヘシト雖モ需用年額千二百萬担ニ對シ既ニ年産千萬担ニ達スル國産糖ヲ有シ而モ今漸ク發達ノ道程ニアリ保護奨励其宜敷ヲ得ハ進ンテ輸出國タラントスル我國ニ對シ何等特別保護ノ途ヲ講セズ溘然急送ニ之ヲ實行セントスルハ無謀モ亦甚シト云フヘシ

尙國産糖業ハ現行関税法ヲ基礎トシ二十有餘年ノ長

12 小川町 池田紙店印

キニ亘リ該法規保護ノ下ニ漸ク今日ノ成果ヲ齎シ得タルニ過キス從テ黄双着色ノ如キ多年苦心ノ下ニ生産費ヲ犧牲トシ一種獨特ノ黄双糖製造ニ成功シテ需用者ノ嗜好ニ適合センメ以テ僅ニ外糖ニ對抗シ得タルノミ之レ生産費割高ナル我國産糖業カ克ク外糖ノ競争ニ堪エ列國ノ関税保護ニ比シ其ニ分ノ一乃至四分ノ一低率ナル現行税率ヲ以テシテ辛フシテ今日ノ發達ヲ見タル所以ニ外ナラス蓋シ不自然ナル黄双着色制度ヲ廢止シ一大革新ヲ加フルコトハ理想トシテ何人モ異議ナキ所ナルヘシト雖モ我國黄双糖ノ發達ノ由來進歩ノ順序ヲ顧慮セス從來獲得セル實益即一擔一圓五十錢乃至一圓ノ格開ヲ無視シテ單ニ世界ノ大勢ニ反シ技術ノ進歩ニ伴

ハストノ理由ト着色廢止ノ美名ニ迷ヒ一朝此制度ニシテ改廢セラレシカ我國産糖業ハ唯一ノ武器ヲ奪ハル其根底ヲ覆ヘサルルニ至ルヘシ故ニ仮ニ提案ノ議ヲ正當ナリトスルモ現在及將來ノ外糖ノ競争壓迫並ニ我國産糖業ノ現況ニ照ラシ此制度ノ変更タルヤ必ス相當ノ補償ヲ伴ハサルヘカラス然ラスシテ無償ニ之ヲ放棄セシメントスルハ徒ニ百万担乃至二百万担ノ加工輸出糖ニ眩惑シ千万担ニ達セル我國産糖業ノ死活ヲ顧ミサルノ暴論タルヲ免カレス殊ニ原料粗悪技術未タ瓜哇玖瑪ノ域ニ達セス容易ニ四種糖ヲ製出シ得サル我國ニ於テハ一層ノ痛苦ヲ感セスレハアラス況ンヤ着色費ノ如キ一担僅ニ六七錢ヲ出テサルニ於テオヤ

19 小川町 池田紙店印

### 第五 原糖買付不利問題

原料糖ヲ黄双ニ限定セララル結果先約ノ危険ヲ冒スノ必要ニ迫ラレ買付上不便不利益ヲ被ムルコト甚ナカラストノ議モ亦改正理由ノ一條ナレトモ右ハ會々戰時非常ニ際シ世界的砂糖大不足ノ秋ニ於テ各國競フテ玖瑪又ハ瓜哇糖ヲ先約セル場合ニ現ハレタル一時的現象ニシテ今ヤ世界ノ糖界安定ノ域ニ入り其弊モ亦漸ヤク消滅ヲ見ルニ至レリ近年我國ニ於テ前年三四月ノ頃早クモ翌年度産瓜哇糖ヲ競フテ先約スルヲ例トシタルカ本年ハ今日ニ至ルモ尚明年度瓜哇糖買付ノ声ヲ聞カサルハ之ヲ立証スルモノト云フヘシ殊ニ將來其販路殆ト東洋方面ニ局限セラルヘキ瓜哇糖ノ如キハ其販路ヲ得



ルノ必要上進シテ黄双ヲ製造シ我國需用ニ應スヘント  
断スルモ敢テ不當ニアラスト信ス且ソ我國瓜哇糖買付  
ノ実情ハ投機思惑ノ為メ年々必要以上多額ノ買過キヲ  
為スヲ常トシ現ニ本年ノ如キ三百余万担ノ過剩買付糖  
ヲ擁シ寧ロ其處分ニ窮スルノ情態ニシテ税法改正ノ結  
果ハ輸入糖ノ範圍擴大セラレ其用途モ亦擴張セラルル  
ニヨリ一層外糖買付ノ思惑ヲ挑發スルノミナラス輸入  
モ亦不當ニ促進セラレ我國貿易上ニ多大ノ悪結果ヲ齎  
ラスハ勿論我國糖界ハ之カ為メ常ニ甚大ノ壓迫ヲ受ケ  
精粗両糖業共ニ大不利益ヲ被ヒリ其發達進歩ヲ阻止セ  
ラルヘシ

第六 精粗両糖競争問題

13 小川町 池田紙店印

我國産糖業現在ノ生産設備ヲ以テシテハ四種糖ヲ生  
産シ難ク而シテ全一税率ノ下ニアリテハ四種糖ヲ製造  
スルニ非サレハ輸入糖ニ對抗シ得サルヲ以テ更ニ相償  
ノ資金ヲ投下シ其製造設備ヲ改造セサルヲ得ス而カモ  
四種糖生産程度ニ改造スルモ五種糖生産設備ニ改造ス  
ルモ其差額僅少ナルノミナラス直接消費糖トシテ市場  
ニ賣出シ得ス而モ外糖ノ使用ニ妨ケラレ原料糖ニモ亦  
賣込ミ得サル過剩産糖處分ノ必要上勢ヒ我國粗糖工場  
ヲ驅ツテ悉ク五種糖(即チ耕地白糖)工場ニ改造セシムルニ  
至リ資金ヲ徒費スルハ勿論生産費ヲ増加シ消費者ニ不  
利益ヲ被ムラシムルノミナラス現在ニ於テスラ生産過  
剩ニ苦ミツツアル精製糖ノ販路ヲ蠶食シ茲ニ台湾白糖

並ニ内地精糖間ニ有害無益ナル競争ヲ惹起シ遂ニハ両者ノ存立ヲモ脅スニ至ルヘシ

### 第七 結 論

要之一部糖業者ノ改正意見ハ内外原料糖ノ採縦ヲ容易ナラシムルヲ以テ主タル目的トスルモノニシテ外列國ノ保護政策ノ大勢ト逆行シ内自産自給ノ國是ニ反戾シ我國産糖業ノ休戚ヲ顧ミサル謬見タルヲ免カレス其加工輸出糖ニ關スル多少ノ利便ノ如キハ問題ノ輕重大小固ヨリ今日ノ論ニアラス況ニヤ原料糖ノ採縦ハ結局外糖投機思惑ヲ旺盛ナラシメ一層其弊ヲ助長スルニ止マルニ於テオマ之ヲ大觀スルニ改正案實行ノ結果ハ得ル所甚タ少ナクシテ失フ所甚タ大ナルノミナラス我國

12 小川町 池田紙店印

関稅政策ノ根本義ニ反シ國産獎勵ノ産業政策ニ悖リ殖民政策ニ蹉跌ヲ招来シ徒ラニ斯界ヲ紛乱裡ニ陥ルル等現在ノ國情ニ適應セサル事明白ニ付一部糖業者ノ利便ヲ目的トスル關稅改正ニハ断シテ賛シ能ハサル所ナリ右我國糖業ノ現状ニ鑑ミ陳情仕候間何卒宜敷御裁量奉仰候也

大正十四年十月十四日

基東製糖株式會社

取締役社長

安場 末喜

明治製糖株式会社

取締役社長

相馬 幸一治

南洋興發株式会社

専務取締役

松江 春次

新高製糖株式会社

常務取締役

浅田 知造

新竹製糖株式会社

取締役社長

赤司 初太郎

13 小川町 池田紙店印

帝國製糖株式会社

専務取締役社長

松方 正徳

新興製糖株式会社

取締役

石川 昌次

林本源製糖株式会社

取締役

石川 昌次

臺南製糖株式会社

取締役社長

鈴木 梅四郎

東洋製糖株式會社

取締役社長 山成喬六

沙糖製糖株式會社

代理 武智直道

13 小川町 池田紙店印

大藏大臣濱口雄幸殿